緑風の子

梁瀬小学校だより

令和５年１１月２２日

校訓「明るく　強く　健やかに」　　学校教育目標「いのち輝く梁瀬っ子の育成」

4年ぶり人数制限なしでのオープンスクール開催

〇インフルエンザ、コロナでの欠席者がいなくなり、少し収まった感があり、４年ぶりに人数制限のないオープンスクールを１１月１６日(木)午後から開催しました。授業参観や市造形教育展巡回展の公開等に多数の方に来校いただき、学校での子どもたちの様子を見ていただきました。平日のお忙しい中、ご来校いただき、ありがとうございました。子どもたちも緊張する中、とてもがんばっていました。

〇また、授業参観後は、体育館でニュージーランドからジョシュ・ミチクレナ氏(ダンサー兼振付師)に講演をしていただきました。通訳に藤原真紀先生をお願いし、「Ｄａｎｃｅ＆Ｐｅｏｐｌｅ～ジョシュが世界で出会ったダンスと様々な人々～」という演題でミニダンスショーやお話をしていただきました。ジョシュ氏は、来日前に怪我をされ、心配していましたが、藤原真紀先生とのコラボダンスショーは見ている者を引き込むすばらしいショーでした。また、お話の中で感銘を受けたのが、一つは「Ｐｅｏｐｌｅ　ｆｉｒｓｔ　Ｄａｎｃｅ　ｓｅｃｏｎｄ」という言葉で、「ダンスは大好きだけれど、一番は人と人とのつながりが大切である」ということと児童の最後の質問「夢を叶えるのに大切なことは何ですか」という問いに「夢は一人では叶えられない、多くの方の支えがあり実現できる。人から支えてあげたいと思われる人、信頼される人でなければならないこと。それだけの努力が必要。」と言うことでした。また、世界には、いろいろな国のいろんな事情があることも話していただきました。最後にお礼として、６年生が高内先生からご指導いただいた(当日は高内先生の指揮、中村様のピアノ伴奏)合唱「ひまわりの約束」を贈り、講師の先生から「涙が出そうだった」と言っていただけるほどのすばらしい合唱をしてくれました。会場には、９０名近い保護者や地域の方に参加していただきました。講師の先生、通訳の藤原先生、指揮と指導をしていただいた高内先生、ピアノ伴奏の中村様、ありがとうございました。講演を聴いていただいた皆様もありがとうございました。そして、最後にすばらしい合唱を披露してくれた６年生の皆様、ありがとうございました。関わっていただいた皆様に感謝し、お礼申し上げます。

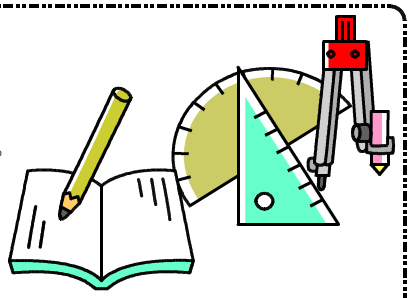
〇余談ですが、前日と当日にジョシュ氏と藤原先生と打ち合わせをしていたのですが、二人は打ち合わせの合間もダンスの練習や確認を何度もされていました。藤原先生が言われるのには、来日してからジョシュ氏はずっと練習を欠かさずされていたそうです。「足を怪我していても、まだ自分のできることはある。そのことを伝えたい。」と言われた言葉にプロとしての自覚の高さを感じました。

2年生の校外学習

〇２年生は、毎年城崎マリンワールドへ校外学習に行きます。行き帰りは、バスを貸しきりという形ではなく、公共交通機関を活用します。ＪＲと路線バスを乗り継ぎ行きます。道中に学びを取り入れています。１１月７日(火)に全但バスの方にバスの乗り方教室を行っていただき、バスの乗り方を学び、１１月９日(木)に城崎マリンワールドへ行きました。切符を買ったり、整理券の番号で料金を払う体験も自分でします。当日は緊張しながらも、みんな自分でしっかりとできました。車社会でなかなか電車やバスに乗る機会は少ないです。また、車内のマナーを守ることも学習です。何事も経験です。自分でやってみてできると大きな自信になります。目を輝かせて挑戦する２年生がとても頼もしく見えました。

全国学力・学習状況調査及び学力標準調査分析結果

４月１８日(火)に６年生を対象に「全国学力学習状況調査」４・５年生を対象に「学力標準調査」を実施しました。この調査は、「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ことを目的の一つとして実施しています。そこで、調査から見えてくる学力分析を行い、授業改善に反映したり、また、６年生は、生活面でのアンケートも実施し、学校や家庭での生活のあり方を考え、改善点等を検討し、学校でどのように改善し、取り組んでいけるか考えています。



【国語】

【よくできている問題】

○原因と結果など情報と情報との関係について理解できている。
○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。
○文書の種類とその特徴について理解できている。
○中心となる語や文を見つけて要約することができている。
○敬語に関する理解はできている。

【課題が残った問題】※原因についても

○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように工夫することに課題が残る。
○目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして､必要な情報を見つけることに課題が残る。
・図表やグラフ等を用いて、必要な情報を見つけたり、考えを書き表す機会が少ない。
○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題が残る。
・書く活動を授業で取り入れているが、書く条件を理解し、自分の考えを整理しまとめる段階的な学習の工夫が必要である。無回答率もやや高くなる。
○学年別漢字配当表に示されている漢字で同音異義語を正しく漢字で使うことに課題が残る。
・漢字の学習時に意味も学習しているが､間違いやすい同音異義語の漢字の定着が課題である。

【指導上の工夫と改善策について】

○漢字も一度覚えただけでは、忘れたり、戸惑うこともあるので、間違いやすい漢字については、繰り返し活用していく指導が必要である。また、文を書く際に漢字をしっかり使っていく習慣をつけることも大切である。
○図表やグラフの読み取る機会を設け、見つけたことや自分の考えを書く機会を各学年毎に継続的に取り入れていく必要がある。
○「書くこと」を授業で取り入れているが、各学年で段階的に身につけていく計画が必要である。また、主語や述語の基本文の繰り返しを学習に取り入れていくことが必要である。また、語彙力を高めるために、さらに読書活動を推進していくことが大切になる。

【算数】

【よくできている問題】

○加法と乗法の混在した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることはできている。

【課題が残った問題】

○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断することに課題が残る。台形やの意味や性質について、正三角形の意味や性質について等図形について忘れている
○割合に関することや筆算をしたときの位について理解が不十分な点が見られる。
○示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかという問いで、立式できていても、言葉で説明できないことが課題である。

【指導上の工夫と改善策について】

○掲示物を用いて様々な三角形や四角形についての知識を掲示し、児童が繰り返し見られるようにする。定期的に振り返りの復習を取り入れ、定着を図る。割合に関する知識も同様である。
○筆算を具体物や図と関連付けて考察させたり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表させたりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにする。
○普段の算数の授業で、問題を早く解けた児童は、発表の際に説明もできるように、式の説明をノートに書かせる習慣をつける。式を書いたのち、その説明を「キーワードとなる言葉」を含めて書けるように、書き慣れさせる。
○その時は理解し、覚えていても、忘れていく問題が多い。時々、振り返って学習する機会を設ける。

※今回は、６年生に限った分析です。理解したことを繰り返し復習していくことで定着につながります。どんな人でも忘れます。継続して続けることが定着の鍵になります。